

総合資源エネルギー調査会
省エネルギー・新エネルギー分科会 省エネルギー小委員会
建築材料等判断基準ワーキンググループ（第15回）
議事要旨

1. 日時：令和4年5月25日（水曜日） 10時00分～12時00分

2. 場所：経済産業省別館11階 1115会議室（※オンライン開催）

3. 出席者：

委員

田辺座長、池本委員、井上委員、岩前委員、加藤委員、鈴木委員、
二宮委員、前委員、望月委員、山下委員

オブザーバー

板硝子協会、全国複層硝子工業会、（一社）日本サッシ協会、
樹脂サッシ工業会、硝子繊維協会、ロックウール工業会、
押出発泡ポリスチレン工業会、ウレタンフォーム工業会、
（一社）日本建材・住宅設備産業協会、（一社）住宅生産団体連合会、
（国研）新エネルギー・産業技術総合開発機構、国土交通省住宅局、
環境省地球環境局地球温暖化対策課地球温暖化対策事業室、
経済産業省製造産業局生活製品課

事務局

経済産業省資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部省エネルギー課

4. 議 題：

- 1 窓の性能表示制度に関するとりまとめ（案）について
- 2 断熱材の建材トップランナー制度の論点に係る検討の方向性について
- 3 今後の進め方について

5. 議事要旨：

議題1 窓の性能表示制度に関するとりまとめ（案）について

資料1について事務局から説明を行い、とりまとめ（案）については座長一任で最終化の上、公表することで了承された。委員からの主な指摘内容は以下のとおり。

- ・ 日射取得と日射遮蔽について、日射取得を強化すれば冬の暖房負荷は下がるが夏の冷房負荷は上がり、逆に日射遮蔽を強化すれば夏の冷房負荷は下がるが冬の暖房負荷は上がる。メリットだけではなく、デメリットも併せて記載すべき。
- ・ 日射遮蔽を強化すると断熱性能は向上するため、日射熱取得率と断熱性

能は統合して考えるべきもの。一方で、日射遮蔽を強化すると可視光の透過性が下がるため、基本は軒やシェード等の付属部品で日射遮蔽を行うことが望ましい。他方、付属部品で日射遮蔽を行えない場合もあるため、HEAT20の設計ガイドブックを参考に、付属部品で日射を遮蔽できる場合とそうではない場合とで、適切な日射熱取得率が変わることについて記載すべき。

- ・ 住宅を建築する際に消費者が選択しなければならない事柄は数多くあることから、消費者任せになってしまうと、必ずしも適切な性能の窓が選択されなくなるおそれがある。このため、プロの手助けが重要である。
- ・ 窓の断熱性能の向上により住環境が改善する点や、日射取得率は周辺環境との関係が重要である点について、既存の調査や文献等も参考に上手く記載して欲しい。

議題2 断熱材の建材トップランナー制度の論点に係る検討の方向性について

資料2について事務局から説明を行い、検討の方向性案は概ね了承された。ただし、グラスウールと押出法ポリスチレンフォームの目標基準値の設定については、将来推計のみでは判断ができないため、2030年の住宅の性能を踏まえた検討等、引き続きの議論が必要であるとの意見が示された。

議題3 今後の進め方

資料3について事務局から説明を行い、了承された。

以上

お問合せ先

資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部省エネルギー課

電話：03-3501-9726

FAX：03-3501-8396